

コロナ禍の遠隔授業と学内演習による保育実習の報告

Report on On-campus and Online Education for Pre-school Student Teachers during the COVID-19 pandemic

三 好 伸 子 (人間科学部こども学科准教授)

Nobuko MIYOSHI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Associate Professor)

連 桃李恵 (人間科学部こども学科講師)

Tokie MURAJI (Faculty of Human Sciences, Department of Child Study, Lecturer)

〈要旨〉

新型コロナウイルス (COVID-19) の影響により、2020年度前期授業の「保育実習Ⅰ (保育所) 事前事後指導」・「保育実習Ⅱ 事前事後指導」は、ほぼ遠隔授業で実施した。同年度の8月から9月に予定していた保育所等における現場実習は中止して学内演習に替えた。担当教員である筆者らは、感染予防対策の徹底と、学生の保育学への学習意欲を向上させるという課題をもった。本報告は、新たなパンデミックや自然災害などの不測に事態に対応できる保育者としての力の養成を目指して実践した事前授業から保育実習 (学内演習) までの実践報告である。

〈キーワード〉

コロナ禍, 保育実習, 感染予防

目 次

はじめに

1. 「保育実習Ⅰ (保育所) 事前事後指導」と「保育実習Ⅱ 事前事後指導」の授業内容
 - 1-1 遠隔授業に対しての心がけ
 - 1-2 事前指導の実際
 - 1-3 「子ども主体の保育」を目指す
2. 「保育実習Ⅰ (保育所)」・「保育実習Ⅱ」の学内演習内容
 - 2-1 重層的・反復的な演習
 - 2-2 学内演習の感染予防対策
 - 2-3 学内演習の実際

おわりに

はじめに

2020年1月初旬に、日本における新型コロナウイルスに関連した肺炎の患者が確認されてから、日を迫うごとに感染者が増加した。このような状況を受けて、本学においては3月の卒業式と4月の入学式は規模を縮小し、新年度の授業は原則すべての科目が遠隔授業となった。したがって、「保育実習Ⅰ (保育所) 事前事後指導」と「保育実習Ⅱ 事前事後指導」の両授業もほぼ遠隔授業で実施した。また8月中旬から9月中旬までに実施予定であった「保育実習Ⅰ (保育所)」・「保育実習Ⅱ」の保育所等における現場実習に関しては、学内演習に切り替えることとした。その決

定までの手続きは、以下である。まず、厚生労働省子ども家庭局保育課の「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について」(令和2年6月15日付)における「1. 養成施設の運営に係る取扱い」(3)「(前略) 実情を踏まえ実習に替えて演習または学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を習得することとして差し支えないこと」⁽¹⁾という事務連絡を受けて、筆者らが話し合った。次に本学の教職支援センターが実習先へのアンケート調査 (保育実習実施可否等に関する) を実施した。その結果をもとに本学の教職支援センターと話し合い、学内演習に切り替えることを決定した。

筆者らは、子ども、保育者、学生の安全を第一に考える感染予防対策の意識の徹底と同時に、「学生が現場実習未経験者というイメージを抱かないようにする」、「学生自身が学習効果を感じて保育学への学習意欲を継続及び向上させる」などの課題をもった。本論は筆者らが、新たなパンデミックの予想や自然災害などの不測の事態に対応できる保育者としての力の養成を目指した事前授業から学内演習までを時系的にまとめた実践報告である。

1 「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」と「保育実習Ⅱ事前事後指導」の授業内容

1-1 遠隔授業に対しての心がけ

遠隔授業に向けて、筆者らは授業内容を繰り返し検討した。大学内で使用するdotCampus（インターレクト株式会社開発の学習ソフト。PC、スマートフォン、タブレットなどから自在にアクセス可能）と、ロイロノート・スクール（株式会社ROIRO開発の教室内でインターネットを使って学習支援を行うためのプログラム・システム・アプリ。以下ロイロと記す。）と、Zoom（Zoom Video CommunicationsのWeb会議用アプリ）を準備して遠隔授業に臨んだ。

筆者らにとっても学生らにとっても初めての遠隔授業であったが、学生の学習意欲を保持するように努めた。意識して学習姿勢を認める言葉を増やし、動画配信がうまく伝わっているかどうかという教員の不安な気持ちも正直に配信して、学生の不安に寄り添うように努力した。学生は毎回印象に残った学習内容と質問を書き、筆者らとロイロでやりとりを行った。筆者らは、質問項目の中で全員と共有したい回答を次の授業では動画配信するという方法をとった。遠隔授業であったが、学生の質問にいてねいに答えて双方向の授業となるように心がけた。

学生自身が遠隔授業だったために自己の保育技術が未熟だと感じないように、例年どおりの指導も取り入れた。具体的には、保育現場をイメージした保育指導案の指導や、材料配布を郵送で行い乳児保育の視覚的教材研究（手袋シアター、紙で作る教材）などである。



【写真1】送付したカラー手袋を使った学生の教材

1-2 事前指導の実際

①学生の強みとなる動画教材づくりと教材研究

「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」の課題として、一人ずつに動画教材2つの作成を課した。動画教材課題に取り組むことで、保育現場の子どもに間接的に出会うことができ、今後新たなパンデミックや自然災害時にも保護者支援などができるイメージをもてると考えた。動画教材作成の力が、学生の「強み」となることを期待した。

その際、本大学附属幼稚園2園の協力を得て、「附属幼稚園の子どもが実際に見る」想定で作成する課題とした。保育実習で子どもに出会うはずだったが、それがかなわない学生たちにとって、本大学附属園2園との連携は、学生の学習意欲を保てる契機であり、感染対策に悩む附属園にとっても好機となり相互に役立つ連携となった。筆者らが動画で様々な教材（手袋シアター、牛乳パックシアター、4つ折りシアター、スケッチブックシアターなど）を紹介して、学生らがそれらを活用して自宅で作成した。



【写真2】自宅で動画教材を作成する学生

②事前授業内の2回の対面授業について

「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」の授業内の2回だけ対面授業を行い、教材（スケッチブックやプリント）配布と学内演習の説明をした。その際には、学生が作成した本大学附属幼稚園2園に毎週約5人ずつ送っている動画教材を数人分見合い、コメントし合う学習を行った。動画教材の配信は、学生の個人情報保護の観点から、YouTubeの限定配信を利用していたため、学生は新鮮な視点で友達の動画教材を見ていた。（学内演習時には、全員分を視聴した。）

感染予防対策を行い、学生が声を出さないようにしたため双方向のやりとりがしにくい授業となったが、学内演習に向けての心構えなどを話した。

（【参考資料1】保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導・保育実習Ⅱ事前事後指導 授業内容 参照）

1-3 「子ども主体の保育」を目指す

筆者らは、2019年度から保育実習指導Ⅱを二人で担当している。そのため、2020年度の保育所等における現場実習が学内演習に替わると決定する前からどのような授業を行うべきかを日常的に話し合っていた。そこでは、「子ども主体の保育」のあり方を学生らに伝えることを目標に掲げていた。学内演習に替わる保育実習となっても、「子ども主体の保育」を目指すことは最も重要だと考えていた。以下に3つの立場からの目標設定の理由を述べる。

第1に、自ら遊びを選ぶ力、考えて活動に取り組む力、人やモノに関わろうとする力、自分で判断する力、豊かに生活する力などをもつ子どもの立場からの視点である。そのような力を信頼するおとなの意識により、未知のウイルスに出会うという2020年度のコロナ禍のような不測の事態にも対応する市民に子どもたちが育つと考えた。

第2に自ら主体的に活動しようとする子どもの力を信頼する保育者としての立場である。筆者1は、これまでの卒業生保育者の姿から、保育者になると日常業務をこなすための緊張感や、クラス運営への責任感から、子どもの力を信頼する立場より、大人の視点で保育を考えてしまう傾向を見てきた。保育者になっても「子ども主体の保育」の重要性について、継続して学習し続けることが重要だと考えている。そのため、保育者養成校での保育実習指導が、将来保育者となる学生に大きな影響を与えていると考えている。

第3に学生の立場からの視点である。学生側から考えると、不自由な授業の中で何を学べるのかと不安であったと思う。学生の不安に共感しながら、コロナ禍の子どもたちに対して、「子どもに自分の力を役立てたいと考える学生の素直な温かさ」を大切にする学習を目標にしたいと考えた。学生が直接的に子どもに触れずに子どものことを想像する学習は、相手が簡単には見せない内面の気持ちを尊重する対人援助職としての力になると期待した。

さらに筆者1は、これまでの授業経験から、じっくり考えて学生自身が気付くことを待つ学習スタイルが重要ではないかという感覚的な捉えをもっていた。それは、「早く回答を求めようとする学生の姿勢」への危惧と、「現場保育者が学生を導こうとするあまりの管理、指導する保育実習の指導スタイル」への疑問から意識するようになっていた。つまり、「子ども主体の保育」の重要性を筆者らが指導する学習方法ではなく、学生自身が気付く学習方法が、最も重要だと考えた。

以上の考えから、2020年度の「保育実習事前事後指導」から「保育実習Ⅰ及びⅡ」に替わる学内演習は、実際には見られない架空の子どもに対しての保育を考える機会になるが、その負の影響に耐えてより一層、「子ども主体の保育」を深く考察するための演習スタイルを学生に提案し

た。キーワードとして、「子ども主体の保育指導案の発見」と言って学生らの気づきに期待を込めて話した。

2 「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅱ」の学内演習

保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅱに替わる学内演習内容は、【参考資料2】の通り実施した。保育実習Ⅰ（保育所）の期間は、2020年8月19日～8月28日（8日間 合計64時間）であり参加者34名、保育実習Ⅱの期間は、2020年8月31日～9月10日（8日間 合計64時間）であり参加者33名であった。

2-1 重層的・反復的な演習

2019年度の保育指導案作成に関する指導方法を以下にふりかえる。筆者1は、「子ども主体の保育指導案」の書き方を以下のように提示して指導した。実習生が考えた一つの「ねらい」に対する達成度で子どもを捉えることなく、子どもたちの多様な姿を予想して、途中で失敗したり、やり直したりすることをおおらかに認める保育の重要性や、子ども個人への援助をするためのコーナー保育の方法などである。

しかしながらそのような事前指導を受けた学生は、「子ども主体の保育」について、大学と保育現場での保育指導案の書き方の違いとして受け止めて、「実習園ごとに、指導案の書き方が違う」と言った。筆者1には現場でスムーズに実習が行えるようにという意識が強くあった。例えば、保育現場の保育指導案の添削箇所を示し、「このように書くと、保育者からこう添削される」と添削の意図を学生に伝えていたのである。筆者1の指導方法は、将来保育者として自分で「子ども主体の保育」を考える力につながらず、学生の力を信頼していない指導方法であり、学生によっては、「書き方マニュアル」として短絡的に受け止められる場合もあると気づいた。

そこで学内演習の講義内容として、イタリアのレッジョ・エミリアの保育実践を紹介した。学生の考えた活動への参加の有無を子ども自らが選択できる保育の方法や、「子ども主体の保育指導案」の書き方に学生たちが気づき友達と議論したりするための母概念⁽²⁾となる思想が必要だと考えたためである。

さらに学生が「子ども主体の保育」の内容及び方法並びに重要性に気づくために、以下【図1】のように学内演習を組み立てた。まず、記録の書き方については、講義、学生同士の見合い、筆者1との面談、レッジョ・エミリアの子ども主体の考え方の講義などを行った。保育指導案の書き方については、筆者らが同じ題材で保育を行っているような動画（「海」の伴奏について、「ねこ」を作る表現遊び）

を作成して、学生が保育方法の違いに気づくように試みた。同時に個人及びペアでの指導案作成を行った。そのような学習を経てから、再度同じ題材で保育を行っているような保育方法について検討した。活動の実践については、課題シートを作成して、様々な遊びについて調べて、それらの遊びの関連性などを調べる基礎的な学習を行い、その後、グループで実践した。様々な素材に触れる実践的な学習を経て、グループごとに模擬保育を実施した。以上のよう

今後に向けて ↑ 深める ↑ 学び合い 考える 気づく やり直す 幅広く知る 多方面から見る ↑ 知る 探す 考える 学びの段階	子ども主体の保育に気づく		
	各学生独自の指導案作成と模擬保育 (筆者1との面談及びグループでの見合い)		
	担当教員(筆者1)との記録に関する個人面談	同じ題材での異なる指導案の再検討 「海①②」 「ねこ①②」	グループによる「野菜スタンプ」と「氷絵あそび」の指導案作成と実践(模擬保育)
	レジャ・エミリア(ドキュメンテーション等)に関する講義	ペアでの指導案の作成	様々な素材に触れる
	学生が作成した指導案の学生同士による見合い	個人での指導案の作成	グループで実技課題シートに記載した活動の実践
	実習日誌や指導案の書き方に関する講義	同じ題材での異なる指導案の比較 「海①②」 「ねこ①②」	実技課題シートの作成(絵本、うたあそび、造形あそび等)
	記録	指導案	活動実践

【図1】重層的・反復的な学内演習方法

子どもや保育者など外部の人たちと触れ合わなかった教育効果に関しては、保育者となった将来の学生の意見を聴きながら、今後丁寧に行っていきたい。本報告では学生の授業・演習の実践をふりかえる「学内演習のまとめのレポート」について報告する。学生の記述には、以下の演習内容が特に効果的であったと挙げられた。友達との考え合い、見合い、添削のし合いなど他者との学び合い、教員との個人面談、同じ活動内容(「海」の伴奏について、「ねこ」を作る表現遊び)の保育指導案についての時間をとおいた反復学習、レジャ・エミリアの保育実践などの講義などである。

2-2 学内演習の感染予防対策

学内演習期間中のテレビやネットのニュースでは、感染者数の発表が繰り返された。感染した著名人やスポーツ選手が謝罪する姿なども報道された。感染者が悪者扱われる他府県のコロナ感染者へのバッシング⁽³⁾なども見られた。筆者らは、もしも学内で感染者が出た際にも、学生が「申し訳ない」気持ちではなく、療養に専念できるように意識づけをしたいと考えた。筆者らは、コロナの感染拡大予防について「この状況では教員も含めて誰もが感染者と

なる可能性がある」、「実習に行かないことで感染リスクを減らす努力をしている。もしも学内で感染者が出れば、学内演習をやり直せばいい」などと学生たちに伝えた。感染が誰にでも起こりうること、感染が疑われる場合には、無理をしないで休む勇気を持つこと、欠席分は補講などを行うこと、集団への配慮を行うことなどを説明して、互いに不安を認め合った。そのうえで、学生へは、教職支援センター作成の体温チェックシート、外出先記録表などを配布して自己管理意識ができるように徹底した。

学内演習の場の感染予防対策として、まず講義の際には、互いの距離をあけた座席指定をした。教室3つを常時確保して、学生が声を出して話し合う、日誌を見合うなどの際には、3つの教室に分散して少人数で演習できるようにした。教室内にアルコール消毒液、使い捨てペーパーを常備して、机、絵本、ハサミ、糊など使用したものはすべて消毒するように学生に指導した。

2-3 学内演習の実際

学内演習の取り組みの様子を以下に記す。

①教材研究

学内演習の初期に、「新聞紙を使った座布団づくり」を行った。座布団は、学生各自が、保育実習Ⅱでの子どもが目前にいると想定するために置くこと、子どもとの間隔をつかむために使用することを伝えた。座布団づくりの材料として、カラーテープを出すだけで、学生たちに作り方などは任せた。学生は、自分で考えて作り、各自の工夫が見られた。



【写真3】新聞紙で作ったそれぞれの座布団

様々な素材を見たり触れたりして演習するために、カラーセロファンに触れて遊ぶ、手形スタンプで特別講師へのお礼カードをつくる、食紅を混ぜる、不織布で遊ぶなどを行った。学生の姿の例として、「カラーセロファン」の素材研究では、窓に透かして見る、セロファンを重ねて色の変化を見る、好きな素材と組み合わせるなどの多様な遊びが見られた。



【写真4】 カラーセロファンで遊ぶ学生



【写真5】 スタンプ遊びの演習
(特別講師へのお礼カードづくり)

②DVD視聴

実習のマナーを保育者に指導を受けること、子どもの実際の様子を見て場面観察記録などを書くことができないため、以下のDVD(ア～エ)を視聴して学習した。

- (ア)保育のマナーとコミュニケーション/第1巻～第6巻
- (イ)1歳児の育ち事典 年齢別 / 今井和子/監修 / 小学館 2009年
- (ウ)2歳児の育ち事典 年齢別 / 今井和子/監修 / 小学館 2009年
- (エ)平塚幼稚園 教育映像シリーズ 年中ちゅうりっぷ組(4歳児)『すわり鬼』

③学内演習日誌・記録の見合い

保育実習では、毎日子どもと保育者の様子を観察して記録を作成するが、子どもの姿の観察はDVDを視聴した時系列記録と場面観察記録の書き方を演習した。毎日の学内演習日誌は、学習内容・演習内容を記録して、ロイロノートで筆者らが、基本的な文章の添削や、学習意欲への励ましを行い返却した。翌日、学生同士の見合いを行い、互恵的な学習となるようにした。学生のコメントから、お互いの書いた記録を見合うことにより、刺激を受けていたと考える。

④乳児の保育

保育実習Ⅰ(保育所)は、乳児クラスに入って実習する予定であったため、乳児クラスでの実際をイメージできるように乳向け絵本(70冊)を教室に置いた。学生に学内演習中にすべての絵本を読んで内容をまとめるように課した。さらに乳児向けの絵本とわらべうたを組み合わせた保育指導案の作成を保育実習Ⅰ(保育所)の最終課題とした。

調乳体験とおむつ替えの演習は、34人を4つのグループに分けて、少人数で実施した。おむつ替えの体験は、基本的小なおむつ替えの指導に加えて、おむつ替えの前後にわらべうたを歌うという乳児保育の実際をイメージできるように行った。

DVDは、1歳児と2歳児の保育所保育の実際の映像を視聴して、場面観察記録を2日間の課題とした。



【写真6】 おむつ交換とわらべうたを合わせた乳児の養護の演習

⑤特別講義・触れ合いの意味(わらべうた演習)

特別講師から「触れること」に関する歴史と学術的な意義について遠隔授業(Zoom)による講話を受けた。感染症対策により、直接的な触れ合いが制限されているが、間接的な触れ合いがあることを聞き、学生の心に残り、レポートに記述する姿が見られた。学生らは、触れ合わないわらべうたの演習をしながら、触れ合いの意味を考え合ったといえる。

⑥動画教材作成(グループワーク)

「事前事後指導」期間中に各自作成した動画教材を見合い、その過程で学習したポイントについて話し合った。さらに、学内演習ではグループで動画教材を作成した。学生には、事前事後指導での指導を繰り返した。2020年度生の学生の「強み」となるように動画教材づくりに向き合うこと、「新しい保育のスタイル」として映像動画教材を研究すること、今後起こりうる不測の事態にも子どものためにできることを考えて周囲の人たちと協力して行動する人であってほしいことなどを伝えた。

そこで、学生が主体的に取り組めるように筆者らは特別な指導を行わず、学生が自己の興味関心に沿って、グループに分かれた。人形作りは、筆者1が提案した。子どもに触れ合うことができない学生たちが、子どもの等身大人形を作成することは、子どもを想像することに役立つと考えたためである。

グループは5つであり、(A)人形作り(わらべうた)、(B)食物の栄養について(食育)、(C)野菜へ興味(食育)、(D)避難訓練について、(E)動画教材の小道具づくり、音楽担当となった。(E)の小道具づくり、音楽担当を選択した学生らは、テーマを定めるより、「教材づくり」を学習したい気持ちがあり、その意欲を尊重した。

動画教材は、多くの子どもたちや保育現場に役立ててもらおうという気持ちを込めて作成するように伝えた。学内演習終了後、本大学ホームページで配信した。



【写真7】2歳児等身大の人形を使ったわらべうた遊び



【写真8】避難訓練をテーマにした動画教材



【写真9】野菜と数をテーマにした動画教材



【写真10】食育(栄養)をテーマにした動画教材



【写真11】ラキューをテーマにした動画教材



【写真12】動画を見る附属幼稚園の園児たち

⑦幼児の保育(氷絵遊び、野菜スタンプ、うた遊び、LaQ)

「事前事後指導」において学生は、基礎的な学習として課題シートをそれぞれ作成した。その内容は、絵本、うた遊び、造形遊び、ルールのある遊びなどであるが、そこに記載された遊び(活動)は、学生自身がこれまでに体験した遊びと、インターネットや書籍等で知識を得ただけの遊びが混在していた。もし保育現場における保育実習を行っていたら、学生は子どもたちと日常の保育の中で様々な遊びを自身も体験しただろう。そこで学内演習においても実体験からの学習が必要だと考えて、「事前事後指導」における課題シート等において多く挙げられた「野菜スタンプ」と夏の遊びとして挙げられた「氷絵遊び」を題材にグループでの模擬保育を実施することにした。

その際筆者2は、保育指導案作成の際、環境構成についての学生の問いに対して、助言に迷う様子を見せて問い返す指導を行った。そのような筆者2の迷いの姿を見せる、すなわち、「子ども主体の保育」について筆者2が答えを

示すのではなく、学生同士で話し合いを深めていく過程を重視した指導により、学生の実環境構成についての考察が深まった。例として、筆者2とのやりとりを活かして、間接的な援助となる準備物について、紙の種類、大きさ、数、絵の具の色や濃さなど、環境構成を考え直す姿が見られた。そのような姿は、保育現場の保育実習で保育者からの助言を活かして保育指導案を修正する営みと同様の学習の意味をもち、一つの意義があったと考える。その後、グループごとにおける模擬保育を実施した。保育者役と子ども役を交代で担当し、活動の実践のみならず、出来上がった作品を掲示する演習も行った。模擬保育後において、各活動の保育指導案にグループ全員のコメント付けを行い、振り返りを行った。

さらに、保育現場で用いられている玩具で遊ぶ体験を通して、玩具の特性を知ったり、集中して遊ぶことの意義を考えたりする実践する場を設ける必要性を感じた。そこで「LaQ」（ブロック玩具）の遊び体験も取り入れた。

また、対象児を意識した演習課題として、うた遊びの実演も行い学生同士で見合った。これら3つの遊びの演習に関しては、できる限りの感染予防を行うため、野菜スタンプと氷絵遊びの指導案を考える教室、LaQを体験する教室、うた遊びを実践する教室の3つに分けるなどの対策を行った。



【写真13】間隔を開けて模擬保育を実施



【写真14】野菜スタンプの作品で保育室の掲示記録を演習



【写真15】氷絵の作品を教室の壁に貼って見合う

おわりに

筆者らは学生自身が、現場で子どもと触れ合っていないマイナスイメージを抱かず、学習効果を実感して保育学への学習意欲を向上させるという課題を持ち、学内演習等を実施した。それらの課題に関しては、筆者1の添削と学生同士の見合いが、指導案のみならず日誌やレポート等における「記録力」の向上に一効果があったと考える。

また、レッジョ・エミリアの「子ども主体の保育」の思想の講義などから、保育の難しさを感じる一方で、楽しさや面白さを感じた学生もいたと捉えられた。つまり、「子ども主体の保育」の在り方について、個人、ペア、グループ、そして保育実習全体において繰り返し様々な場面で考え続けたことにより、以前は「子ども主体の保育」に対して漠然としたイメージしか持てずにいた学生が、“子どもの多様性を認める”“子どもの意見を尊重する”“子どもが自ら遊びたいようになるように援助する”などといった自分なりの考えを少なからず持ち、今後に向けて生かしていくことのできる学びを得たように思われる。

各学生が、今回の保育実習で培った「保育に対する思い」や「記録力」などを今後に生かしていくことと考える。

最後に子どもとのかかわりの中でしか学ぶことのできないことがあることは筆者らのみならず、学生自身も理解していることであろう。学生からは、「子どもたちと会いたかった」、「実際に子どもたちと活動を行ってみたかった」といった残念な気持ちや、「保育現場で実習を行わなかったが大丈夫なのだろうか」といった不安な気持ちが聞かれた。これらに関しては、2020年度後期以降の各ゼミナールでの活動等や、2021年度の「幼児教育実習Ⅰ及びⅡ」において補われ、充たされていくことを期待する。

また「子ども主体の保育実習記録」及び「保育指導案」の書き方の指導に関しては、本実践報告を活用して今後も継続して考えていく予定である。

（三好：1-1、1-2①②、1-3、2-1、2-2、2-3①②③④⑤⑥、参考資料1）

（連：はじめに、2-3⑦、おわりに、参考資料2）

参考資料1 保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導・保育実習Ⅱ事前事後指導 授業内容

回	月	保育実習Ⅰ（木） （担当者：筆者1）対面授業★	教科書	保育実習Ⅱ（火） （担当者：筆者1・筆者2）
1	5月	授業の流れ，3歳未満児の生活， 自己紹介，実習園への手紙	p.33-52	自己紹介の作成(2)
2	5月	乳児保育について （子育て支援の指導案より）	p.122-125	乳児の絵本と手遊び(1)
3	5月	時系列記録について （記録の用語の意味）	p.24-32	時系列記録の作成(1)
4	5月 6月	動画教材について 場面観察記録とは（異年齢児保育）	p.74-84	場面観察記録の作成(1)
5	6月	保育指導案について（意味と書き方）	p.1-15	保育指導案の作成と添削(1)
6	6月	保育指導案について （乳児の絵本とわらべうた遊び）	p.16-23	<u>課題シート①</u> の作成(2)
7	6月	写真と言葉かけから指導案を考える （うた遊び）		<u>課題シート②</u> の作成(2)
8	6月	写真と言葉かけから指導案を考える （つくる遊び）		うた遊びの意味(2) p.110-121
9	7月	時系列記録（DVD視聴）と保育教材（スケ ッチブック）の配布，手遊び演習 ★（2グループに分かれた対面授業）		保育指導案の作成と添削(1)
10	7月	3歳以上児の保育指導案について	p.53-71	うた遊びの意味(2)
11	7月	指導案によくある間違い事例	p.132-138	保育指導案の作成と添削(1)
12	7月	指導案に使う用語	p.140-152	<u>課題シート③</u> の作成(2)
13	7月	保育実習（演習）について ★学内演習の説明・書類の配布（大教室）		保育指導案の作成と添削(1)
14	8月	個別の指導案，コーナー保育の指導案	p.98-108	指導案（半日保育について）(1)
15	8月	まとめ（自宅学習）		まとめ（自宅学習）
備考		・6月に郵送で手袋シアター作成のための材料（手袋，カラーゴム）を送付。 ・附属園（2園）の子どもたちに向けた動画教材を自宅で作成して，筆者1とのやり取りの後，附属園（2園）へ動画配信した。（4月～6月までと7月～8月までの期間中に各学生1作品×2回） 【教科書】開仁志(2008)「これで安心!保育指導案の書き方 実習生・初任者からベテランまで」北大路書房		

参考資料2 保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習Ⅱにおける学内演習内容

日	保育実習Ⅰ（保育所）演習内容	保育実習Ⅱ演習内容
1 日目	◎保育実習Ⅰ（保育所）の概要 講義「学内演習に求めること・保育実習の目標」 個人票、幼児の指導案の返却、修正 教材研究 座布団づくり ◎保育所の一日の理解 DVD視聴（3歳児記録） 時系列記録 個人の動画教材の評価（学生同士の添削） 乳児絵本の演習・乳児の絵本シート・学内演習日誌	◎保育実習Ⅱの概要 講義「子どもを主体とする思想をもつ記録：レッジョ・エミリアのドキュメンテーション」 演習 鯨岡峻の「間主観性について」 ◎幼児の発達理解と絵本の活用 幼児の絵本 演習 DVD視聴（マナーとチームワーク3、4） 教材研究「カラーセロファンとマスキングテープ」 幼児の絵本の演習幼児の絵本シート 学内演習日誌の見合い
2 日目	◎実習記録で用いる用語 講義 学内演習日誌の書き方 DVD（2歳児記録） グループの指導案発表（保育実習Ⅰ事前事後指導課題ペア課題） ◎乳児の発達理解と絵本の活用 わらべうた演習 グループの指導案修正（保育実習Ⅰ事前事後指導課題ペア課題） 場面観察記録（2歳児）・学内演習日誌	◎幼児との応答的な関わり合い 講義「子ども主体の保育を目指す保育指導案」 DVD（4歳児すわり鬼） ◎幼児の保育所生活の理解 特別講師による講義「保育の楽しさと意義—誕生日会・避難訓練・保健衛生・食物アレルギーを中心に—」 【ZOOM】 教材研究「コーヒーフィルターと水彩絵の具」 特別講師の講義内容のまとめ 場面観察記録作成（すわり鬼） 学内演習日誌の見合い
3 日目	◎乳幼児との応答的な関わり合い 特別講師による講義「触れ合いの意味」【ZOOM】 ◎乳児の発達理解とうた遊び・つくる遊び 実技シートの演習（発表） 動画教材の計画（グループワーク） 特別講師の講義内容のまとめ 学内演習日誌の見合い（学生同士の添削）	◎実習記録を用いた子ども理解 事前事後指導の課題の再検討（「海①、海②」「ねこ①、ねこ②」の保育） 教材研究「手形スタンプ」演習 グループワーク「お礼状づくり」 場面観察記録作成（すわり鬼）と見合い（学生同士の添削） ◎幼児の遊び（野菜スタンプ・氷絵などの演習） 幼児向け保育指導案作成・模擬保育準備 食物アレルギーについて 学内演習日誌の見合い
4 日目	◎乳児の保育を想定した養護演習（調乳・おむつ交換、排せつ指導等の実践） 講義・演習（交代制）わらべうた演習 DVD視聴（1歳児記録） DVD視聴（マナーとチームワーク1、2） 動画教材づくり（グループワーク） 教材研究 紙の教材づくり 場面観察記録（1歳児） 学内演習日誌の見合い・自己評価票の作成	◎幼児の発達理解とうた遊び 実技シートの演習 幼児の遊び（カブラ） ◎幼児クラスを想定した誕生日会・避難訓練・保健衛生 動画教材づくり（グループワーク） 模擬保育準備 学内演習日誌の見合い・自己評価票の作成
5 日目	◎乳児クラスを想定した避難訓練・誕生会 講義 食物アレルギーの対応について 場面観察記録（1歳児）の見合い（学生同士の添削） 部分保育実践（個別 一人15分 質疑応答5分 10人） 動画教材づくり（グループワーク） 学内演習日誌の見合い・自己評価票の作成	◎幼児の発達理解とつくる遊び 野菜スタンプ・氷絵のグループでの実践 動画教材づくり（グループワーク） 模擬保育準備 学内演習日誌の見合い・自己評価票の作成
6 日目	◎乳児クラスを想定した部分保育実践①～③ 部分保育実践（個別 一人15分 質疑応答5分 10人） 動画教材途中経過発表（グループワーク） 学内演習日誌の見合い・自己評価票の作成	◎幼児クラスを想定した部分保育実践 模擬保育（一人15分 質疑応答5分 10人） 模擬保育（一人15分 質疑応答5分 10人） 動画教材づくり（グループワーク） 指導案の再検討 学内演習日誌の見合い・自己評価票の修正
7 日目	◎指導案の実践とふりかえり 指導案の再検討 部分保育実践（個別 一人15分 質疑応答5分 10人） 部分保育実践（個別 一人15分 質疑応答5分 4人＋再挑戦者） 個人の動画教材の評価（学生同士の添削） 自己評価票の修正・学内演習日誌の見合い	◎幼児クラスを想定した部分保育実践 模擬保育（一人15分 質疑応答5分 10人） 模擬保育（一人15分 質疑応答5分 3人＋再挑戦者） ◎指導案の実践とふりかえり 動画教材発表 すべての書類の見直し・「学内演習のまとめ」作成 学内演習日誌の見合い・自己評価票の修正
8 日目	◎実習の反省と評価 学内演習の評価 すべての書類提出	◎実践演習（実習）の反省・評価 「学内演習のまとめ」の見合い 学内演習の評価 すべての書類提出

注

- (1) 厚生労働省子ども家庭局保育課 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う指定保育士養成施設の対応について <https://www.hoyokyo.or.jp/infomation20210519.pdf> (2021年7月12日参照)
- (2) 日本臨床教育学会会長の田中孝彦は、「子どもや患者や人々と直接交わり、その体験を語り合い、そこから生存・発達・学習を支える援助的・教育的実践課題と構想を明確に描こうとすれば、どうしても獲得し共有する必要のある基本的な概念」を『母概念』と呼んでいる。田中孝彦(2016). 援助職・教育職の臨床的な研究に伴走して あるいは伴走されて、武庫川女子大学臨床教育学研究科「最終講義」レジュメより
- (3) 鴻上商事 佐藤直樹「同調圧力 日本社会はなぜ息苦しいのか」講談社現代新書2579 2020年 講談社 p.119.
「ヨーロッパへ卒業旅行をした学生が集団感染した京都産業大学には、『学生の住所を教えろ』『火をつけるぞ』といった内容を含む電話やメールが数百件寄せられました。三重県で感染者や家族の家に、石が投げ込まれたり、壁に落書きされるなどの事件が起きている。」

謝辞

写真掲載の許可を含めて、2020年度の保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱ受講学生に対して感謝の意を表し、本報告が学生たちの今後の学習意欲につながることを期待します。

付記

本報告における「子ども主体の保育指導案」に関する検証については、2021年度日本保育学会第74回大会における三好・連「子ども主体の保育指導案作成に関する保育実習授業方法(1)ーレジヨ・エミリアの保育思想を通してー」及び、連・三好「子ども主体の保育実習指導案作成に関する授業方法(2)ー野菜スタンプ・氷絵あそびのグループ演習と添削の効果ー」で発表している。